

令和 CAST「社会にインパクトある研究」

第3回討論会「市場の価値判断・理念の提示・技術の進歩に任せておいても、社会課題の解決が進まない現状にどう対応するか」

2022年04月21日 13:00-16:00

この討論会の重要なポイント

- ・ 市場の価値判断に任せておいても、「里山維持」「地方のインフラ維持」など、投資効果の見い出されていない地方の社会課題の解決は、自律的には進まない現状にあること
- ・ 「現状の価値観の延伸によるビジョン」に対し、代替的な「より人道的・調和的な別の社会の姿」にシフトさせる力(driving force)については、社会も巻き込んで進める必要があるが、難しい課題である（高橋）。
- ・ Society1.0 狩猟採集, Society2.0 農耕, Society3.0 工業化, Society4.0 情報化社会, そして Society5.0 という発展とともに、「人々は、都市の生活の中で、狩猟採集や農耕を忘れてしまったが、人間として本当にそれでいいのでしょうか」ということを問いたい（小倉）。
- ・ そのため、エネルギーや食料、空気、水の「流れ」に関して、中田先生ご提案のフローの可視化がとても重要。そうやって個人が「流れ」を実感することが、環境問題やエネルギー問題の解決（社会の変革）の第一歩として重要なのではないか（小倉）。
- ・ 人間だからこそ、「自然・環境・未来を含め他者のことを想像し配慮する能力（利他の精神）を持っている」ならば、人間が、人間を中心には考えるが、他者との調和をとれた社会作り・街づくりを人間が行うという姿が考えられる（久田、秋田、本江）。
- ・ 社会課題の解決においてどこに「普遍性」をおくかということに関し、誰もその普遍性を見出していないのであれば、「八百万の神を育ててきた日本人ならではの感性」を役立てることができるのではないか（久田、後藤）。